

なく、予算執行の総括を担当します。

用度主任の若加事務官と川本事務官は、主に教官の方々が必要とされる研究用機器の購入手続きを担当、大谷事務官は日々における消耗品のものの購入手続きを担当。本多事務官は各コース・講座の予算差引・科学研究費の消耗品の購入手続きを担当。原田事務官は負担行為書の作成と各講座の複写関係の差引、科学研究費の支払計算書の作成を担当。増田直子さんは非常勤職員で用度事務室の紅一点であり、各契約担当者の補助業務を担当。書類の件数も相当ありますがテキパキ処理しております。伊藤正浩事務官は総合科学部になくはならぬ日用物品在庫の出納を担当。金本事務官は物品の管理・供用・不用物品の処分と、又現在物品管理においてもコンピューターの導入が始められており、そちらの方も併せて調整中でもあります。続いて迫井技官は係の最古参で1級のポイラー免許をもつ専門職員ですが、一方持ち前の器用さでこの広い建物内外の維持・管理をしております。伊藤弘之技官は大学の公用自動車を運転する専門職の人で、教養部時代を経て今日に至っておりますが大変苦勞された方の1人で、その経験談も良く飛び出てきますが、若い者にとって貴重な意見として拝聴し又大変スポーツ好きで、学内の競技には必ず顔を出して叱咤激励しながら現役として活躍しているファイトマンでもあります。

[工作室]

南技官はガラス工作の訓練中で理学部工作室に出向いて指導を受けている元気で陽気な若者の1人で、村中技官も同じく理学部において訓練中で、専門は金属工作をしております、その成果も順調で期待できる1人です。

[用務員室]

用務員室は竹谷さん、吉川さん、池田さん、大瀬戸さん、河崎さん、川本さんの6人で構成されており、職務柄朝早く出勤され各教室からでるゴミの処理をし、又各講義室の清掃も行っておりますが、教室内にタバコの吸殻が多いのには苦慮されており、所定の場所で喫煙して欲しいものです。このほか建物周辺の雑草の処理も行われており、労働範囲は広く、常にきれいにしておくための努力をされており、まさに縁の下の力持ちとはこの人たちのことといっても過言ではありません。

以上、構成員並びに仕事内容の一部を紹介しましたが、仕事の性格上とかく用度係に対して批判的意見があるとは思いますが、校費はいわゆる国民の血税であり、いかに有効な運用をしていくかが係としての義務であると思います。又、会計検査院の行政指導もさることながら、予算を執行していく上において責任を付与されるのは事務官（予責法上は事務官と担当係長）であり、少しでも経費の節約を行い無駄のない運用をして参りたいと思いますので、皆様方の御理解と御協力を賜わり総合科学部発展のための一役を担う係として一同邁進していく所存でございます。

学 務 第 一 係

昭和49年6月に、総合科学部が設置され、事務機構改革により50年4月1日学務係が学務第一係と学務第二係に分かれた。

学務第一係は、総合科学部生のための窓口事務担当（3番窓口）である。

学務事務の仕事内容は、下記に挙げることが主な分担事務である。

- (1) 学生募集及び入学試験
- (2) 学科課程及び単位履修
- (3) 授業及び期末試験
- (4) 学籍簿の整理保管
- (5) 入学・休学・復学・転学部・退学及び卒業
- (6) 教育職員免許状取得
- (7) 留学生・聴講生及び研究生
- (8) 学業成績証明書・在学証明書その他諸証明

陣容は6名で編成されている。各事務官を簡単に紹介しておくと、久田知明主任は広大在職34年の超ベテランで、特に外国語に強く中でもスペイン語は、広大中で彼女だけが出来るという才能を持ち合わせている。主に単位履修、休退学、卒業に関することを分担している。

松浦末男事務官は総合科学部設立以来、学務係の仕事、特に入試、授業計画を担当している。人物も柔和で、学生との対応もユーモアをまじえながら接することの出来るベテランである。

寺脇義則事務官はスポーツ精神を飲みこんだ慎重さを持って仕事を行い、学生との対話も物静かな口調で語りかける姿は、一見インテリ風である。主に学科課程、単位履修、教免に関することを担当している。

新人の川野雅英、岡正人両事務官は文部省で鍛

えられた知識を有し、4月から学務第一係へ配属され、川野事務官は成績証明、在学証明書等の交付を、岡事務官は聴講生、研究生に関することを分担としている。

高井秀雄係長は、学生課より4月から配属され、新米ではあるが係の総括を行っている。

学務第一係は第二係の協力を得て、学生の入学時のオリエンテーションに始まり、履修届・授業・試験の実施、そして成績原簿への記入等係全体で仕事を進めている。

また、総合科学部のカリキュラム編成においても各先生方とタイアップして、会議を重ねながら、総合科学部生のために、より良い幅広い分野を求めて研究をしているのである。

総合科学部の学生・教官・職員が一体となって努力すれば、必ず日本一の学部になることは間違いない。

学生諸君も遠慮なしに、窓口へ顔を出し相談をしてもらいたい。(高井記)

学務第二係

前述のように、学務係が2つの係に分離して、学務第一係が総合科学部生を対象としているのに対し、学務第二係は4番窓口で全学の一般教育履修学生の学務事務を担当している。

入学時のオリエンテーションから始まり、履修届と授業、期末試験の実施計画そしてコンピューターによる成績管理またカリキュラムの編成など総合科学部学務委員会の先生方と常にタイアップしながら仕事を進めてゆく学生にとって無くてはならない重要な窓口事務の係である。

学務第二係の所掌する事務は次のとおり。

- (1) 教育課程の編成及び単位の履修に関すること。
- (2) 学籍簿及び成績の整理保管に関すること。
- (3) 期末試験に関すること。
- (4) 学生の休学、復学、転学部、転学科、退学、転学、進学及び留学に関すること。
- (5) 学生及び各学部との連絡調整に関すること。
- (6) 諸証明に関すること。
- (7) 調査統計に関すること。
- (8) その他一般教育の学務に関すること。

平均年齢27才という若いメンバーで構成され、

活気に満ちあふれた係である。担当業務内容と担当者を紹介すると、まず主任の役割をしている岡崎知事務官が非常勤講師の授業関係、休学、退学、調査統計を担当している。

係の主役的存在である河井孝之事務官は期末試験、新入生のガイダンス資料の作成を担当、宴会の時の彼の歌は、そのアクションとともに絶品である。

全学部の連絡調整を必要とし、学務業務の核でもあるカリキュラムの作成は、勉強好きな目下独自の国利辰洋事務官が担当している。

歴史的には浅いが、広島大学の事務機械化のはしりであるコンピューターによる成績管理業務は、スキーやクラシック音楽が趣味という田原正治事務官を中心に、数学に強く旅行が好きな榎田和子事務官、高等学校当時からコンピューターを手がけ、真面目で誠実な中村幸夫事務官、このトリオが担当。

外国語等に英会話が得意な麻尾昌子さんは、年間3,000枚を越す学証明書等の諸証明の発行を担当。

全般的なまとめ役である今田能之係長は、教養部・総合科学部で8年目、広大職員野球部の監督である。(今田記)

厚生補導係

大学生活を大きく分けると、正課授業、課外活動、個人生活に三分されるが、このうち課外活動(主として本部学生課が担当)、個人生活面への助成、サービス、指導等を主な業務としている。

現在総勢8名、総合科学部で女性のいない唯一の係であり、毎日味気ない空気の中で男性8名が、1番窓口(主として証明に関する窓口)と2番窓口(主として奨学金に関する窓口)で仕事をしている。

昨年初めて学部生を社会に送り出したが、何事も初めての経験で苦労をしながら就職を主として担当している係のお父さん(兄貴?)的存在の牧野央(ひろしと読む)主任。

厚生補導係6年のベテラン俵正司事務官、わからないことはこの人に聞けといわれるほどで「飛翔」、「メタセコイア」等の広報、奨学金の電算処理 etc. 毎日、昼休みには囲碁、将棋と頭の体操をしている。

日本育英会、各種育英団体の奨学金関係は事務量が一時期に集中するため、時々学生との対応で少々語気がきつくなることもあるが、本当は気の優しい河野進事務官と、廣大職員サッカー部や、バレーボールに活躍している松浦邦男事務官が担当している。

証明窓口でいつもニコニコしながら種々の証明書の発行を担当しているのは東田操事務官で、廣大職員ソフトボール部の3番、ショートを守るスポーツマンである。

奨学金や、入学科、授業料の免除を担当する島田文隆事務官は、少々太り過ぎを気にしてか気にせずか、職員サッカー部で頑張っている。

体育館管理室では、今年4月採用の横田克広事務官がおり、スタイル抜群、体育館、プールの管理を一手に引き受けている系のホープである。

右を向いても左を向いても何事も初めての仕事で目下勉強中と言っているのは、新任の柚木隆係長である。

系の所掌する事務は次のとおり。

- (1) 学生の生活指導に関すること。
- (2) 学生の福利厚生に関すること。
- (3) カウンセリングに関すること。
- (4) 学生の秩序維持に関すること。
- (5) 学生の課外活動に関すること。
- (6) 学生団体に関すること。
- (7) 学生の掲示に関すること。
- (8) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
- (9) 授業料の減免及び猶予に関すること。
- (10) 奨学に関すること。
- (11) 入学生に関すること。
- (12) 学生記録に関すること。
- (13) 留学生の身上に関すること。
- (14) 学生証に関すること。
- (15) 学生旅客運賃割引証及び各種証明に関すること。
- (16) 学生援護団体との連絡に関すること。
- (17) 学生の健康診断及び保健衛生に関すること。
- (18) 学生健康保険組合に関すること。
- (19) 学生の就職に関すること。
- (20) 卒業生との連絡に関すること。
- (21) 学生の厚生補導に関する調査統計に関すること。
- (22) その他学生の厚生補導に関すること。

最後に係よりこの欄を借りて一言お願い。

“見落した掲示で窓口、しぶい顔” (柚木記)



地域文化コース

地域文化コースには4名の事務職員がおりますが、新館の5階と2階の図書室に2名ずつ分れています。

5階の図書室Aの入江邦子さんは、地域文化コースはえぬきのベテラン職員です。ヨーロッパ研究、比較文化研究担当で、細かいところまでよく気がつき、何事もテキパキと処理していく手腕は、先生方からも高く評価されています。またコロコロとよく笑うほがらかな美人です。

塚本英子さんは、用度係より地域文化コースに移って2年目、英米研究担当。英語が堪能で外人講師のお世話もされ、その家族の方からもとても慕われています。何事にも真面目に取り組み、趣味も広くとてもエネルギッシュな人です。

2階の図書室Bの加世田貞子さんは本部で十年間にわたって経理の仕事にたずさわり、地域文化コースに移って3年目、主としてコースの経理面を担当、とても3児のママとは思えないショートカットの似合う若々しい人です。

木村裕子さんはファッションセンス抜群、とても明朗活発な人で、主として日本研究・アジア研究の図書・複写関係の仕事を担当。目下はちぎり絵にこって素敵な作品を作りつつあります。

(以上自画自賛いたしました。)

社会文化コース

総合科学部正面玄関を入りエレベーターで6階まで上がると、社会文化の図書室である。社会文化コースは、教授9名、助教授10名、講師1名、助手2名の合計22名(昭和53年度末現在)の先生方がおり、総合科学部4コースの中の重要な一翼をになっている。そのチームワークのよさと、家庭的雰囲気づくりに一役買いたいと努力している